

# ダムのリアルタイムデータを集約・一元管理し、 水系全体での効果的なダム運用を実現する

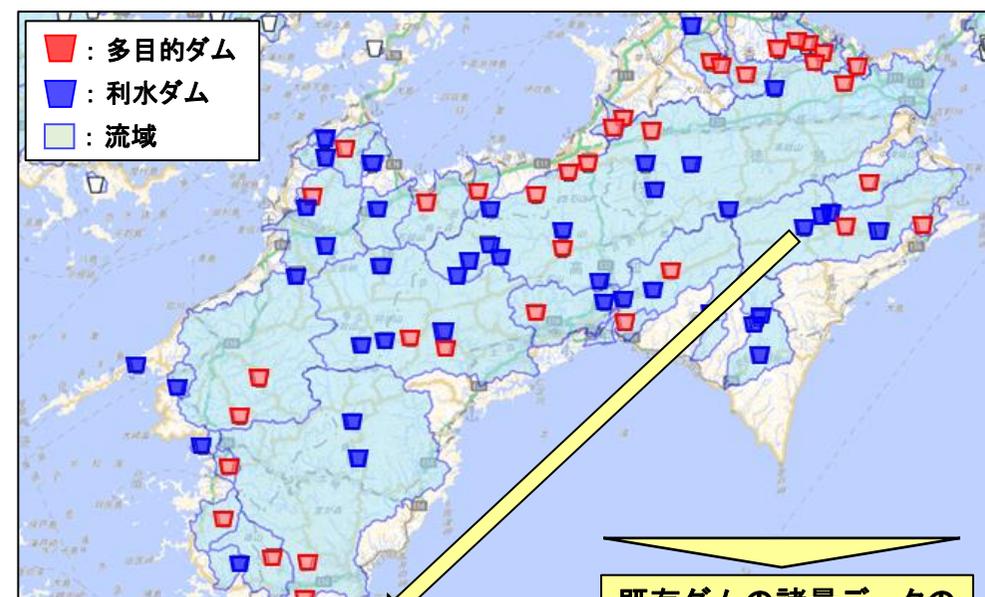
## 【対策】115 河川、砂防、海岸分野における防災情報等の高度化対策

対策概要：住民の避難行動等を支援するため、降雨予測の精度向上を踏まえ、河川・ダムの諸量データの集約化やダムや河川等とのネットワーク化を図るとともに、水害リスク情報の充実や分かりやすい情報発信、迅速な被災状況把握等にかかるシステム強化等を実施する。

府省庁名：国土交通省

## 【事例】河川管理者とダム管理者との間の情報網整備

- 実施主体：河川管理者
- 実施場所：全国（徳島県等）（約900ダム）
- 事業概要：水系におけるより効果的な事前放流等を実施するため、河川管理者が約900の利水ダムのリアルタイムデータを集約・一元管理する情報網を整備している。（令和2年度より約600ダムについて整備が完了）
- 事業費：7億円  
（うち5か年加速化対策（加速化・深化分）7億円）
- 効果：利水ダムを含めた既存ダムの流入量や放流量などの防災情報等のリアルタイムデータを河川管理者に集約し一元管理することにより、水系におけるより効果的な事前放流等の実施のために河川管理者が必要な調整を行うことが可能となる。これにより、大雨等の災害時においても、急激な水位上昇や河川氾濫を防止し、流域の浸水被害を軽減する。



既存ダムの諸量データの  
リアルタイム集約

水系全体での統合運用



ダム諸量グラフ・ダム模式図

ダム諸量  
（放流量、流入量、貯水位等）

▲川の防災情報（徳島県那賀川水系利水ダム）